



未来がみえる
共につくる

2018年
(平成30年)

1月18日
木曜日

織研新聞社

発行所
〒103-0015 東京都中央区
日本橋箱崎町31-4

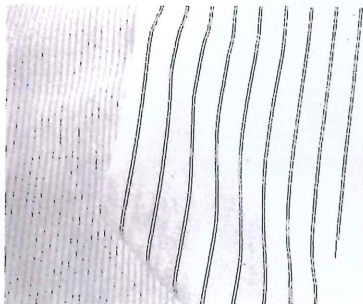


澤村

シャツ用トリコット、ヒット

3年で4万反超を販売

大型素材に成長したポリ
エステルトリコット



澤村が販売しているシャツ向けのポリエステルトリコットが、トータルで4万反を超えるヒットとなっている。ニットの着やすさに加え、布帛感覚の仕立て映えの良さが支持されている。メンズのドレスシャツを中心に、ユニフォームやレディースシャツまで広がる勢いだ。

(木村英喜)

16年春夏向けからスタートしたポリエステル100%のダブル幅のトリコットで、28号のハイゲージで編み立て、布帛感覚で着用できる。軽く、伸縮性があり、しわになりにくく、速乾性があり、家庭洗濯可能でアイ

ロン掛けも必要ない。ソフトな風合いながら、適度なハリ、コシを持っているため、シャツに仕立てた時にも、洗濯後も保型性を維持する。

これまでニットのシャツ地ではソフトさを追求すると保型性が保てず、ハリコシを追求すると風合いの良さが表現できなかったが、同社は北陸のニッター、整理仕上げ工場とチームを作り、1年以上かけて開発した。

1年目は紳士服郊外店のドレスシャツ地でスタートした。これが「予想以上の結果」となり、2年目はオフィスユニフォームやワーキング市場にも広がった。3年目の今期はポリエステル・綿や糸番手のバリエーション、無地だけでなく、染め分けでの先染め調子エックやストライプ柄などの意匠表現に工夫を凝らしている。レディース向けでは32号を開発するなど、50マーク以上提案し、数量を拡大している。これまでの販売総量は4万反超で、市中でヒット素材不在が続く中で、勢いが目立つ。国内だけでなく欧米、中国向け輸出でも手応えが出ている。

今後はレーヨンやワールなどとの複合開発も進めながら、年間通じて対応できる素材として位置付ける。プリントやエンボスなどの後加工も加え、カジュアルシャツやジャケットなどのアウターアイテムへの提案も進める計画だ。同社は2年前に福井市に北陸支店を設置して、産地企業と組んだテキスタイル開発を強化している。今回のトリコットも、こうした取り組みの中から生まれたヒット素材で、さらに独自性の高いテキスタイル開発に力を入れる。